

# 木材ジャーナル 名古屋・せぶ

令和8年5月号 No.228

名古屋木材組合  
名古屋港木材産業協同組合

## 政経文化講演会

令和8年3月18日(水)午後3時から名古屋木材会館において、会員事業社35名が参加し、元中京大学客員教授・元駐ラトビア日本大使、現学校法人梅村学園評議員 多賀敏行氏をお招きし、「政経文化講演会」が開催されました。『天皇陛下に仕え、世界と向き合って』～侍従と外交官の現場からと題し、「侍従とは何か」を説明したのち、宮中で使用されている言葉を説明しました。

上皇が阪神淡路大震災の被災地を訪問した時のエピソードや現天皇の皇太子時代のエピソードなど普段聞けない話が聞けました。



多賀敏行氏

## 令和8年度名古屋木材業界新入社員歓迎会・講習会

令和8年4月4日(金)午後1時30分から名古屋木材会館において、名古屋木材組合員各社の新入社員21名(参加企業4社)を迎え、名古屋木材組合主催、名古屋木材青壮年会主管により歓迎会、講習会が開催された。

最初に西垣洋一組合長は幕末の志士、橋本佐内の「啓発録」を紹介し、「稚心を去る」「気を振るふ」「志を立つ」「学に勉む」「交友を択ぶ」の5か条を紹介した後、「中東情勢が大変な状況になっているが、ブレない軸をもって頑張ってください」と激励した。

この後、新入社員を代表して村田 福さん(材惣木材株)が「今まで経験したことのない厳しい困難に直面しても学生生活での経験を活かし、充実した毎日を送りたい。一日も早く皆様の期待にそえるよう昇進します」と誓いの言葉を述べた。

続いて、名古屋木材青壮年会令和8年度会長 友松 功氏よりオリエンテーションのあと、講習会①「新社会人のためのビジネス・マナー」として外部専門講師 矢田美穂子先生が、挨拶の仕方・名刺交換・電話対応・来客対応などを実習した。

講習会②「木材の基本知識」として、名古屋木材青壮年会 井上智香子氏を講師に講習会が行われた。



講演会の様子



新入生代表 村田 福氏

## 令和8年度模範従業員 表彰式

令和8年4月17日(金)午前10時より名古屋木材会館において、木材業界に永年勤務され、他の模範となる名古屋木材組合員各社従業員の方々に対する表彰式が開催された。

山本剛久専務理事の司会進行のもと、鈴木和雄相談役の主催者挨拶の後、名古屋市長表彰、名古屋木材組合長表彰が行われ、賞状及び記念品が手渡された。

その後、市長(代理 名古屋市経済局産業労働部 正木彩恵子産業企画課長補佐)からの祝辞が寄せられ、受賞者を代表して竹内光雅氏(株山西)が謝辞を述べた。

受賞者は次のとおりです。

### ◎市長賞(勤続年数30年以上)

- ・小森淳史(株東海木材相互市場)・伊藤和恵(名古屋木材株)
- ・片山倫男(株山西)・竹内光雅(株山西)

### ◎組合長賞(勤続年数15年以上)

- ・小島斉宏(株サンコー)・山下里巳(株サンコー)・龍崎 猛(株サンコー)・近藤 充(株サンコー)
- ・加藤 綾(株サンコー)・川合里枝(株サンコー)・平野成章(材惣木材株)・榎本晴樹(材惣木材株)
- ・立松宗樹(株東海プレカット)・津田晃寿(株東海プレカット)・浅井麻起子(名古屋木材株)
- ・伊藤美由紀(名古屋木材株)・岡村康幸(丸美産業株)・大島恵利華(株山西)・熊谷孟紀(株山西)
- ・堤 智也(株山西)・宮田 瞬(株山西)・各務早紀(株山西)



表彰式

“いま、木に本気” 暮らしに活かそう木の良さを

# さわやかとーく

ゲスト：友松 功 名古屋木材青壮年會會長

聞き手：江口達郎 広報委員長(名古屋木材組合)

今回のゲストは、名古屋木材青壮年会（NMS）の令和8年度會長に就任された友松 功氏をお迎えしました。中央木材市売株の代表取締役社長として流通、製材から加工まで、木材に関わる企業経営に当たって13年。NMSに入会して18年というベテランです。来年には岐阜で開催される全国大會の主管団体の一員としてNMSも重要な役割を担います。今年度はその準備期間として忙しさも増すことでしょう。會長として抱負を語っていただきました。

(聞き手は、江口達郎広報委員長)

—第64代會長に就任されました。會長は初めてと聞くと、意外という思いもありますが、まずはご本人から自己紹介をお願いします。

友松 大学を出てから、関東の丸宇木材市場に入社して2年ほど修行して、名古屋に戻ってきました。すぐに当時のメンバー長屋さんに誘われNMSに入会して、日本木青連の役員にも10年ほど出向していましたが、會長就任は初めてです。仕方ないかなという感じですね。

—満を持しての會長就任ですが、抱負をお聞かせください。スローガンはなんとされましたか。

友松 「X(掛け算)」とさせて頂きました。入会以来18年たっていますが、やはり会の一番の醍醐味は人との交流だと思います。私自身も先輩、後輩の皆さんに声をかけてもらって行動し、成長し、それが仕事にもつながってきました。単なる足し算ではなく人と人が交わり、「伸びしろ」ごと増やしていこう。それが掛け算です。交流を単なる「イベント」ではなく「資産」にしていきたいと思っています。来年には6月に岐阜市内で全国大會が開催されますので、是非これをつながりの良い機会にしたい。

會員は昨年と同じ32名ですが20代をはじめ若いメンバーが増えました。また愛知県青連には杉浦會長はじめ17名、東海地区協議会には西垣會長はじめ16名、木青連には桑原専務理事はじめ10名が参加します。多くのメンバーが役員として全国大會に向けて役割を担いますので、我々も積極的にフォローしながらつながりを強め、「掛け算」をもっと増やしていこうと思っています。

—木材業界に入って20年くらいたって、木材業界に対して、どんなイメージを持っていますか。

友松 東海木材相互市場の中で木材流通を中心に、会社では丸太製材から流通、加工まで経験しています。正直言って、木材はその価値を評価されることが難しいですね。市場での評価の基準が曖昧

で、携わって苦勞は多いです。価値は最終需要に価格が左右されることが多く、供給側に決定権がないことが欠点でしょうね。我々の声が届かないということですか。はっきり言って、ハウスメーカーやプレカット分野の声が強いですね。当然、我々の分野が潤っているとは思えません。課題は多いですね。

山も持っていますが、儲からないし山を維持するのも苦勞が多い。これでは持とうという思いも沸かないですね。生産者の声が木材価格に届かなくて、これでは生産として意欲も沸きませんね。

—そうした思いの中で、今後の仕事上の関心はなんですか。

友松 流通以外もやっているので木材の使い方のうち、非住宅分野で、どう付加価値を広げていけるのが面白いところだと思っています。例えばフローリング加工ひとつとっても塗装や表面処理など、どうすれば木にプラスして活かせるか、興味をもっている点ですね。

その他、AIにも関心あります。仕事でも大いに利用面はありそうですね。ただ、人と人の関係ではリアルな触れ合いは大切だと思います。会ではコロナ禍の影響でZOOMの役員会をしていましたが、対面なしですから、会後の懇談の機会も減りました。1対1ならともかく、3人以上の会合となると話をしない人も増え、コミュニケーションは減ります。便利な点は利用しながら、大切な触れ合いは残したいですね。

—普段お休みの日はどう過ごされていますか。お子さんは、お二人ですか。

友松 結婚して5年たちました。現在は4歳男子、2歳女子、妻と、やはりどうしても家族中心になりますね。個人的には自宅で「筋トレ」やっています。健康維持に努めながら、自宅に器具を置いています。ベンチプレスを昨年100kg上げました。(笑)

友松 功氏 (ともまつ・いさお)

昭和58年9月4日生まれ。42歳。名城大学農学部卒業後、丸宇木材市売に入社。2年勤務後、父君経営の中央木材市売株に入社。30歳で代表取締役社長に就任。好きな言葉は「明日死ぬと生きて生きなさい。永遠に生きるとして学びなさい」。



## ◆ 合縁木縁 ◆

## 「変わる材料、変わらない現場」

木材の仕事をする前までは、「木は高いもの」と認識していた。確かに銘木や良質な無垢材の中には高価なものもあるが、木材すべてが高いというわけではない。また、近年はそうしたイメージとは別のところで、木材を取り巻く状況自体が変わりつつあるように感じている。

ここ数年、輸入材の価格は大きく動いた。為替や物流の影響などもあり、これまで比較的安定していた外材も値上がりする場面が増えている。そうした流れの中で、建築の現場では使われる材料にも少しずつ変化が見られるようになった。例えば、これまで米松が使われていた垂木が桧に変わったり、ホワイトウッドの間柱が杉に置き換わったりすることがある。外材が当たり前のように使われていた部分に、国産材という選択肢が改めて意識され始めているようにも感じる。また最近では、柱に集成材が使われることも増え、下地材としてLVLを選ぶ現場も見かけるようになった。単価や品質の安定といった理由から、こうした材料を選ぶ動きも広がっているのだろう。

一方で、長年使い慣れてきた材料を変えることに慎重な方も少なくない。施工の感覚や品質への信頼、これまでの経験などから米松やホワイトウッドを根強く使い続ける現場もある。建築は長く残るものだからこそ、材料の選択にもそれぞれの考え方があるのだと思う。

木材の世界では、価格や供給の状況によって使われる材料が変わっていく。しかし現場では、職人の経験や感覚といった長い時間をかけて積み重ねられてきたものが大切にされている。

変わる材料、変わらない現場。木材に関わる仕事をしていると、その両方を日々感じる。これからも現場の声に耳を傾けながら、共に考え、それぞれの仕事に合った木材を届けていきたいと思う。

今回は、山富木材株式会社 富 嶺央氏にお願いします。

## ◆ 自遊で異見番 ◆

## 「地元の懐かしい仲間」

2026年は世界的に様々なスポーツイベントが開催される年です。既に開催された冬季オリンピックでは、地元ゆかりのある選手が大活躍し、またセンバツ高校野球では、地元の中京大中京高校がベスト4まで進出し、大いに盛り上がりました。

そしてプロ野球も開幕しました。残念ながら、地元中日ドラゴンズは開幕5連敗、下位に低迷しております。そんな中、6試合目にはベテラン大野投手の完投、新加入のサノー選手のホームランにより、ついに本年初白星をあげ、嬉しくなり最後のサノー選手のヒーローインタビューまで観戦しておりました。

サノー選手の通訳は、「ありがとうございます」「最高です」といった、いつも同じようなコメントの多いスペイン語の通訳ですが、バンテリンドームを盛り上げるあの甲高い声にはなぜか懐かしさを感じます。なぜなら、桂川通訳は私の学生時代の同級生だからです。

桂川通訳は大学卒業後、青年海外協力隊に入隊し、ニカラグアで少年達に野球を指導し、社会人の野球チームの通訳を経て、中日ドラゴンズの球団職員として採用されました。主にスペイン語圏の外国人選手の通訳をしております。

学生時代、彼の温かい人間性が、個性的なバラバラのチームをまとめていました。その人間性は今でも変わらず、外国人選手と家族ぐるみの付き合いをし、FAで他球団に移籍した外国人選手とも親交が続いていると聞いております。

今年から、学生時代、共に汗を流したメンバーと会う機会が多くなり、昔話で盛り上がることも多くなりました。現在は、医者、警察官、税務署職員、親の会社を引き継いだ者、60歳前に既に現役引退した者等様々なメンバーですが、桂川通訳の話で盛り上がり、GWにはゴルフをすることにもなりました。

現在、仕事で様々な団体の会合等にも参加し情報交換を行っておりますが、学生時代の仲間と名刺交換をすることもなく、昔のアダ名で呼び合う関係から得られる情報には、大変新鮮さを覚えました。今後の自身の生活、新たな仕事のヒントになるような話も多く、これからも地元の仲間は大切にしていきたいと思います。

最後に桂川通訳の甲高い雄叫びが何度もバンテリンドームに響き渡ることが、東海エリアの活性化にもつながると思いますので、地元の仲間と共に応援致します。

### 第76回全名古屋木材産業野球大会開幕

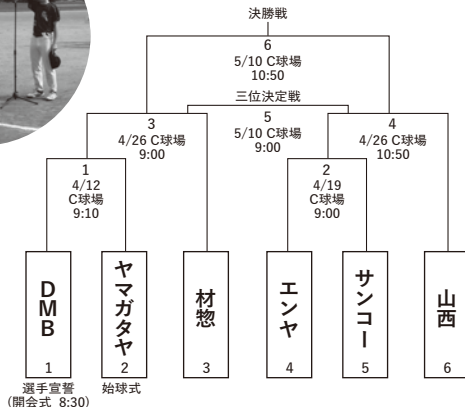
「第76回全名古屋木材産業野球大会」(名古屋木材健康保険組合、名古屋木材組合、名古屋港木材産業協同組合共催)の開会式及び第1試合が「本場南C球場」で4月12日(日)午前8時30分から開催されました。今大会は昨年より1チーム少ない6チームの参加となりました。

開会式では、山本剛久大会委員長が「昨年より1チーム少ない大会となりましたが、大会の趣旨は健康と親睦です。怪我のないように注意していただき楽しんでプレーし親睦を深めて頂きたい。今後の大会運営につきましては、みなさんに楽しんでいただけるようにより多くの対戦機会を設けることも検討していきたい。」と挨拶されました。

DMBチームの竹村啓吾氏が元気に選手宣誓を行い、続いて名古屋ダイヤモンド野球連名の中村審判がルール説明を行った後、ヤマガタヤの松波敏寿氏の始球式で大会の幕が開きました。



#### 第75回 全名古屋木材産業野球大会



### ☆☆☆ 西部臨海安全ニュース ☆☆☆

#### SNS型投資詐欺にご注意を！

蟹江警察署管内では、投資家や著名人等を装い、偽のSNS広告からメッセージアプリに誘導し、偽の投資話を持ち掛け、指定した個人口座に送金させたり、暗号資産を送金させたりしてお金を騙し取るSNS型投資詐欺が急増しています。被害に遭わないためにも、次のような対策をしましょう。

- 【SNSの広告等からの投資話を鵜呑みにしないこと】
- 【個人名義の口座に振込みしないこと】

【投資で確実に儲かる話や必ず成功できる話はありません】

蟹江警察署 生活安全課 生活安全係 TEL.0567-95-0110

### ◆ 広告コーナー

人と未来のために高い技術を誇るプレカットシステムのトップメーカー

# MIYAGAWA

宮川工機株式会社

〒441-8019 豊橋市花田町字中ノ坪5-3

TEL 0532-31-1251 FAX 0532-34-1956

URL <https://www.miyagawakoki.co.jp/>

7/17

暮らしの中で、輝き続けるキッチン

# STEDIA

ステディア

発行 名古屋木材組合  
 発行者 西垣洋一  
 〒460-0017 名古屋市中区松原2-18-10  
 TEL <052> 331-9386  
 FAX <052> 322-3376  
 【編集】名古屋木材組合広報委員会

発行 名古屋港木材産業協同組合  
 発行者 服部伸一  
 〒490-1444 海部郡飛鳥村木場1-74  
 TEL <0567> 57-2017  
 FAX <0567> 57-2018  
 【編集】名古屋港木材産業協同組合広報委員会